平成30年度研究成果報告書　　【継続:平成29～30年度指定】

都道府県・指定都市番号	34	都道府県・指定都市名	広島県	研究課題番号・校種名	３（４）・高等学校
				領域名	ＥＳＤ

研究課題	**学校全体で取り組む課題** （４）ＥＳＤを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究
学校名（児童・生徒数）	呉市立呉高等学校（479人）
所在地（電話番号）	広島県呉市阿賀中央5-13-56（0823-72-5577）
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.kure-city.jp/~kurek/

研究のキーワード

「つながりを意識した教育内容の構築」「ＥＳＤ全体計画」「防災プロジェクト学習」

研究結果のポイント

○生徒に身に付けさせるべき力を明確にして，教師と生徒が目的を共有して学習に取り組む体制を取ることができた。

○地域の教育力を活用することによって，生徒が社会と自己とのつながりを意識し，自分たちの取組を地域へ生かそうという意欲が高まった。

○ＥＳＤ研修会で議論を深め，ＥＳＤ全体計画を作成した。

１　研究主題等

（１）研究主題

持続可能な地域社会の構築のために行動できる人材の育成
－ＥＳＤの視点を取り入れた課題発見・解決学習を通して，呉市の現在と未来を考える－

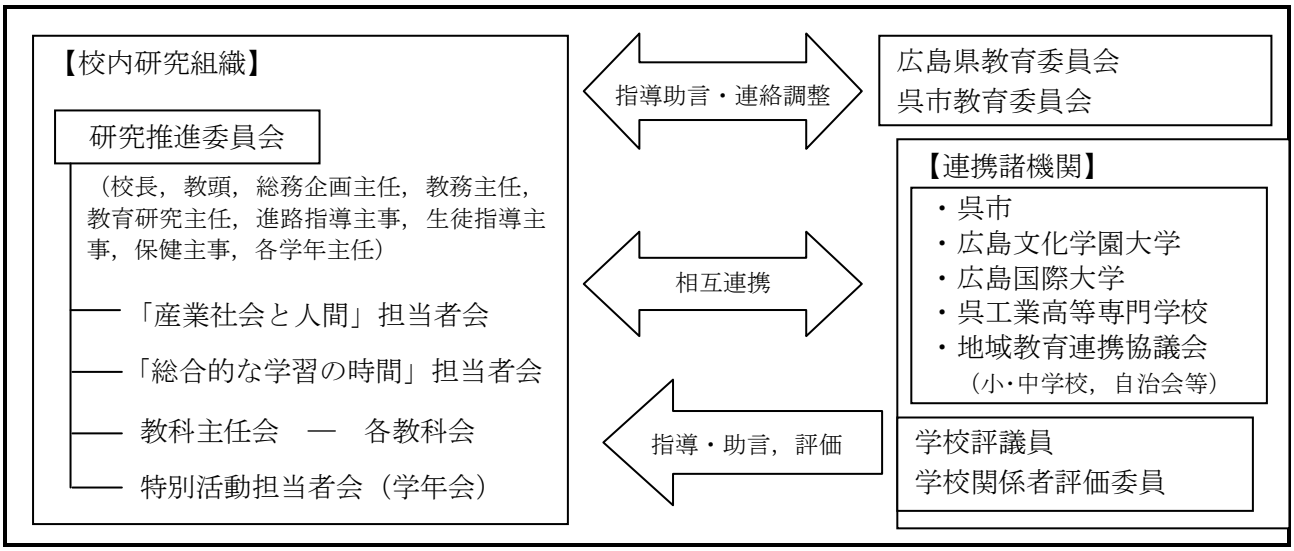
（２）研究主題設定の理由

本校は，呉市唯一の市立高校として，郷土を愛し郷土の未来を切り拓く心豊かでたくましい人材を育成するため，総合学科の特長を生かし，生徒の個性を生かした主体的な学習や将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視している。

生徒は，「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の学習を通して，自己の適性を理解し，将来の自己の在り方生き方を考えるとともに，主体的・継続的に学習する姿勢と探究的・創造的な態度を養い，自ら課題を発見し，自ら学び，考え，よりよく課題を解決するための資質・能力を身に付けようとしている。また，多くの生徒が，他者や地域に貢献したいという気持ちをもち，ボランティア活動も積極的に行っているが，地域が抱える課題の解決に向けて，具体的な一歩を踏み出すには至っていない。

ＥＳＤの視点を取り入れた課題発見・解決学習を，地域課題の解決を目指したキャリア教育として展開することで，学ぶことの意義を社会と自己との関わりや日常的な文脈の中で認識させるとともに，　地域課題解決のための提言と実践への動きを生み出すことで，自立と社会貢献を目指す生徒を育てたい。

（３）研究体制



（４）２年間の主な取組

平成29年度	４月・職員会議（実施計画書を教員間で共有） ・「産業社会と人間（１年次）」におけるＥＳＤについてのガイダンス ５月・研究推進委員会①（講演会に向けた事前協議） ・ＥＳＤ校内研修会①（国研調査官による講演会） ７月・研究推進委員会②（「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の年間計画見直し） ・研究推進委員会③（ＥＳＤ意識調査結果分析） ９月・ＥＳＤ校内研修会②（１学期の振り返りと改善計画） ・防災をテーマとしたプロジェクト学習の開始（２年次） 10 月・学校設定科目「防災」選択者による，地域防災訓練の実施計画の策定・実施 （地域教育連携協議会との連携） 11 月・卒業研究（３年次）成果発表会の開催 （大学・学校評議員・学校関係者評価委員との連携） 12 月・研究推進委員会④（ＥＳＤ意識調査結果の分析） ・ＥＳＤ校内研修会③（これまでの振り返り） １月・研究推進委員会⑤（ＥＳＤ意識調査結果の分析，成果と課題） ・ＥＳＤ校内研修会④（ＥＳＤ全体計画の策定に向けて） ２月・ＥＳＤ校内研修会⑤（大学教授による講演会） ・ライフプラン発表会（１年次）
平成30年度	４月・研究推進委員会⑥（実施計画書の検討，成果と課題の確認，成果発表会に向けて） ・職員会議（実施計画書配付） ・防災をテーマとしたプロジェクト学習の開始（２年次） ５月・研究推進委員会⑦（評価計画について） ・ＥＳＤ校内研修会⑥（評価計画の作成・検討） ６月・ＥＳＤ校内研修会⑦（評価計画の作成・検討） ７月・「平成 30 年７月豪雨災害」の対応と生徒による復興ボランティア参加 ８月・研究推進委員会⑧（ＥＳＤ全体計画について） ・ＥＳＤ校内研修会⑧（ＥＳＤ全体計画の作成・検討） ９月・研究推進委員会⑨（成果発表会の計画）

	・プロジェクト学習発表会（２年次） ・「防災」選択者による，津波避難訓練の計画と啓発 10 月・研究推進委員会⑩（公開授業研究計画，ＥＳＤアンケート結果分析） 11 月・卒業研究（３年次）成果発表会の開催 （大学・学校評議員・学校関係者評価委員との連携） ・ライフプラン発表会（１年次） ・ＥＳＤ校内研修会⑨（これまでの取組の振り返り，ＥＳＤ全体計画の見直し） 12 月・研究成果発表会（国研調査官の講評，教育委員会・学校関係者からの助言等） １～２月・研究推進委員会⑪（成果と課題，ＥＳＤアンケート分析，２年間の振り返り） ３月・ＥＳＤ校内研修会⑩（研究成果の報告，大学教授からの助言）

２　研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究内容

○生徒に身に付けさせたい資質・能力についての議論を深め，指導方針・内容の改善を図った。

○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核とした３年間の系統的な課題発見・解決学習を構築するとともに，各教科や特別活動とのつながりを考えたＥＳＤ全体計画（カリキュラムマップ）を作成した。

（２）具体的な研究活動

ア「産業社会と人間」

○企業訪問

企業等の社会的役割や勤労の大切さ，意義について理解するとともに，持続可能な社会の実現に向けて，企業等がどのような取組を進めているのかを実際の現場で学ばせるために計画を立て取組を進めていた。しかし，「平成 30 年７月豪雨災害」により，多くの企業が被災したため，今年度は企業訪問の実施を見送った。

○社会・環境問題小論文

昨年度までは，情報収集力，多面的，総合的な思考力，批判的な思考力，コミュニケーション力を高めるためにディベートを行ってきた。しかし，今年度は学習内容を精選し，ディベートを「国語総合」の授業で行い，それとつなげる形で小論文学習を展開した。従来の身に付けさせたい力に加え，課題発見・解決学習における論題の立て方など，「フロンティアⅠ」や「フロンティアⅡ」で必要とされるスキルも含めて学べるように工夫した。

イ「総合的な学習の時間」

○２年次「フロンティアⅠ」におけるプロジェクト学習

課題発見・解決のためのスキルを身に付けさせるプロジェクト学習を，昨年度は２学期から行ったが，今年度は１学期からスタートさせた。内容も，地域防災の在り方だけでなく，呉市の課題について幅広く生徒に考えさせるプロジェクト学習に変更した。

○３年次「フロンティアⅡ」における卒業研究

課題を見いだすためのＥＳＤの６つの視点に基づいて，卒業研究のテーマ（課題）を掘り下げ，それを解決するための探究活動を通して，社会と自己との関わりを深く意識させる取組を行った。

ウ　学校設定科目「防災」選択者による学習内容の見直し

今年度の「防災」選択者は，２年次に「防災プロジェクト学習」で学んできている。そこで，生徒に昨年度の内容を見直させ，新たに近隣の小学校との合同学習を行ったり，「平成 30 年７月豪雨災害」の被災者から現地で話を聞いたりする活動を取り入れた。また，全校生徒に防災

についてどのように啓発すればよいかを話し合わせ，効果的な伝え方を工夫させた。

（３）ＰＤＣＡサイクルへの取組について

・１学期末と２学期末に行ったＥＳＤ意識調査では，本校の重点項目である「身の回りの出来事を様々な側面や立場から考えている」の肯定的評価が，１・２年次においては微増し，３年次においては横ばいであった（１年次：89.9%→92.3%，２年次：89.9%→93.6%，３年次：94.9%→95.5%）。

・「地域のことに進んで参加している」「社会のあるべき姿を肯定的，計画的に考えている」の項目が１学期末はとても高く，「平成 30 年７月豪雨災害」のボランティアに自主的に参加した生徒が 59%にのぼったことと連動していると考えられる。今回の災害は，これまで取り組んできた防災学習をより具体的なものに変えていくことにつながった。

３　研究の成果と課題（〇成果●課題）

〇地域の教育力を活用し活動の充実を図った。具体的には，「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「防災」「福祉基礎」「看護基礎」「保育」の授業において，大学や地域の研究機関，行政機関，自治会等と積極的に連携した。また，そういった学習活動を通して，生徒が呉市の特性や取り巻く環境についての理解を深めた。

〇生徒に身に付けさせたい資質・能力についての議論を深め各教科で評価計画を作成した。

〇「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核とした３年間の系統的な課題発見・解決学習の内容の見直しを行うとともに，各教科や特別活動とのつながりを考えたＥＳＤ全体計画（カリキュラムマップ）を作成した。また，それらの取組を通して，教員がこれまで以上にＥＳＤの視点を意識して，課題発見・解決学習の取組を進めていくようになった。

●３年次の「総合的な学習の時間（卒業研究）」において，地域や社会につながる内容のものが増えたが，その一方で生徒個人の興味・関心の域にとどまるものもあり，ＥＳＤの視点を活用した研究活動ができていない生徒が見受けられる。今後さらに地域に根差したＥＳＤの取組を推進していく必要がある。

●最終的には，教育活動の体系化・構造化による「地域課題解決型キャリア教育」のカリキュラム開発と実践を行う予定であるが，キャリア教育とＥＳＤの接合についてＥＳＤ研究推進委員会で議論を深めていく必要がある。

４　今後の取組

（１）持続可能な地域社会の構築のために行動できる人材の育成

〇　課題発見・解決学習を，地域課題の解決を目指したキャリア教育として展開することで，学ぶことの意義を社会と自己との関わりや日常的な文脈の中で認識させる。

〇　地域課題の解決策の提示及び実践（探究的な活動の成果を「提言」としてまとめ，関係諸機関と連携して課題解決の取組を実践する。）

（２）教育課程編成上の工夫・改善

〇　２年間の研究成果を基に，「地域課題解決型キャリア教育」の全体計画を策定するとともに，各教科間及び各教科と探究的な活動とを関連付けることで，教育活動の体系化・構造化を図る。

〇　呉の現在と未来を考える学校設定科目「呉学」を設置する。